



*第15回 東葛南部地域医療連携協議会 開催報告

平成29年2月24日、第15回東葛南部地域医療連携協議会が開催されました。

今回は「病院から退院してどうらしているの？退院後のかかわり、介護・施設から」をテーマに講義をしていただきました。

「ALSなど難病患者への訪問介護について」

訪問介護みかん管理者 大山孝二氏

「認知症ケアとデイサービスの役割について」

認知症対応型通所介護事業所

セントケア大神宮下所長 甲斐英文氏

「自立から看取りまで、サービス付高齢者住宅でできる事について」

学研ココファン西船橋 事業所長 千田美保氏

より、それぞれの現場での介護の現状を熱く語っていただきました。



難病を抱え生活されている方々や、高齢者の方々がいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、在宅を支えている皆様の熱意が伝わってきました。

皆様お忙しい中、院外から43名、院内から26名の方に参加をしていただきました。院内の参加者からは、在宅介護をイメージすることが出来たなど意見が寄せられました。

年に2回開催されるこの協議会は、顔のみえる連携づくりの場としても大切なものになっています。

どうぞこれからも宜しくお願いいたします。

訪問看護室 看護師 小林 順子

*FAXによる内視鏡検査予約について

内視鏡センターでは、FAXのみで検査のご予約が可能です。患者さまは当日、外来を介さず直接内視鏡センターへお越しいただき検査をお受けいただけます。

詳しい資料のご請求やお問合せ、お申込は右記までご連絡ください。

TEL/FAX 047-437-9587

(内視鏡センター直通

祝日を除く月～金 8:30-16:30)

※FAXは24時間受信しますが、上記時間外は翌日対応となる場合があります。



予約診療について

地域医療連携室では、医療機関さまからのご連絡による予約診療を行っています。

事前に診療予約をいただくことにより、患者さまの待ち時間短縮など優先診療を行っています。

ホームページから診療依頼書をダウンロードしてFAXいただくか、下記予約専用電話にて承っております。

☎予約専用電話：047-433-8730

直通FAX：047-433-7086

(予約のみの電話のため、お問い合わせ等は047-433-2111までお願い致します)



地域医療連携医証書について

船橋中央病院と地域の医療機関さまで、地域医療の機能分担を推進し、患者さまの為の綿密な医療連携を図ることを目的とします。特典についてはホームページをご覧ください。

ご希望の医療機関さまへは、迅速に手配をさせていただきますので地域医療連携室までご連絡ください。



*「呼吸」を意識したことはありますか？ ～慢性呼吸器疾患看護認定看護師より～

慢性呼吸器疾患とは、COPD、間質性肺炎、気管支喘息、肺結核後遺症、非結核性抗酸菌症、睡眠呼吸障害等、神経・筋疾患による呼吸障害を含む疾患などをいいます。

皆さん日頃「呼吸」を意識されて生活していますか？生きていくには、呼吸を常にしなければなりません。慢性呼吸器疾患を抱える患者さまは咳や痰、呼吸困難をはじめとする症状を抱えながら生活をしており、「呼吸」を意識して日常生活を送っています。



特に、息苦しいという症状は、周りの人に理解されにくい症状の一つです。苦しいという思いは、パニックにつながり、周りの人もどう対応してよいかわからないことが多々あります。呼吸困難とは、このまま苦しいのが続いて死んでしまうのではないかと死を連想させる恐怖体験です。

私は、そのような患者さまの症状を理解し、症状緩和に努め少しでも恐怖心を軽減させ安心して療養生活を送ることができるよう、患者さま・患者さまを支えるご家族や地域のスタッフの方のサポートをさせていただきたいと思います。お気軽にご連絡ください。

毎月、第4木曜日
2階外来フロアで
相談コーナーを
開いています。
お気軽にご相談
ください。



慢性呼吸器疾患看護認定看護師 中川 文



*お薬 あまっていますか？ ～薬剤部より～

船橋市の高齢化率を調べたところ、23.1%（2015年総務省調査）でした。ちなみに全国平均は26.7%です。

そして船橋中央病院の中を見渡すと入院患者さまは64%が65歳以上と超高齢化です。

高齢となれば、必然的に多科にまたがって薬の処方を受けることとなります。入院時の持参薬はかなりの種類と数量をかかえるようにお持ちになられることも少なくありません。なかには朝だけで20錠を服用される方もいて、さすがに飲みきれないだろうと思うときもあります。

入院時、
段ボールで
薬が届きます



また、複数の薬剤で複雑な飲み方になっていたり、薬剤による健康問題や不利益がひょっとしたら起きているかもしれません。

現在、薬剤部では老年薬学を勉強しながらこのポリファーマシー(多剤処方)に対して取り組んでいます。多職種連携で問題を解決し患者さまにとっての適正な薬物療法が行えるよう励んでいます。

薬剤部長 大里 夏代

